

たすけあいネットワーク会議2024/10/3

社会福祉法人の地域貢献活動
(無償ボランティア スタイル)

川崎市麻生区でのサロン送迎15年

社会福祉法人一廣会 かないばら苑
地域福祉課課長 依田明子

1. サロン送迎の始まり

(1) きっかけは地域の声

麻生区の地区社協でのレクチャー 「地域のサロンに活用できる
デイサービスアクティビティの紹介」

質疑応答で

デイサービスのバスを地域のためにもっと活用して欲しい！

→区の小地域課題解決の助成事業に応募 2008年開始
(人とサロンをつなぐ移送推進協議会)

(2) 社会福祉法人かないばら苑の特徴

- 職員200人規模の大きくない法人
特別養護老人ホーム
在宅サービス (ショート・訪問看/介護・デイ3ヶ・ケアマネ・地域包括3ヶ)
- 暮らしの豊かさを支える部分を 家族交流推進や
ボランティアという形で地域に託した。
- コロナ前 年間延べ4000人のボランティア
“麻生区でねばる” をモットーに
地域交流→地域密着→地域共生へとつなげてきた
30年

*法人の概要

●法人名 社会福祉法人 一廣会 かないばら苑

●運営事業

- ・特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）
- ・ショートステイ・デイサービス
- ・地域密着型認知症デイサービス（区内2か所）
- ・訪問介護・訪問看護・居宅介護支援
- ・地域包括支援センター（区内3か所）
- ・ロコモチャレンジ体操教室（介護保険外サービス）

●設立 1995（平成7年）4月1日

- 特徴・自然な看取りケア・グループケア
- ・地域貢献

*地域の学校

- ・介護職員初任者研修
- ・実務者研修
- ・認知症サポーター養成講座

*地域サロン送迎

*RUNTOMOあさお

*ボランティア養成



2. 机上より実践を！

できるサイズでできることから始めた。

(1) 近所のいこいの家で毎月開催されていたおしゃべり会に、声をかけて送迎を始めた。

ハイエース1台→ピストン→2台

(2) 隣の老人ホームの近くの高齢者サロンから依頼を受けた。

2年後 車を隣の老人ホームが提供

(3) 自立支援協議会のメンバーさんから、土曜日に障がい者のサロンを立ち上げると依頼あり。

ベテラン運転ボラ 車いす送迎可能

(4) 飛び地で山坂のある交通不便な地域で立ち上がったコミュニティサロンより依頼あり。

車をミニバンに変更

2. 机上より実践を！ できるサイズでできることから始めた。

(5) パーキンソン当事者グループからの依頼

区内1つの当事者グループからの依頼
→会の存続も含めて、地域包括支援センターや区保健師さんの協力で支える

(6) 老人会の地域活動への送迎
年3回 大きな町内会のため、
3つの老人会の合同企画。
神社の草むしりの日曜日送迎

イレギュラーな形だが実施。できれば老人会定例会の送迎へと発展させたい。依頼はあるが、運転手を確保できず保留中

(7) 飛び地で山坂のある交通不便な地域の介護事業者の地域向け体操教室の送迎。

1~9番坂まであり、運転できる人が限られる

(8) 地域包括支援センターより依頼あり。仕組みを説明し、運転ボラの確保を依頼し、サロンへ働きかけてもらった。

新しくなった民生委員さんや主催者の夫さんで2名確保できたので開始。

3. 活動のまとめ

(1) 地域の声にこたえる形で

継続 企画力弱い/事務局機能が弱い

(2) 地域サロンの応援に目的を絞
り、運転ボランティアさん
とともに、区内の福祉施
設の空き車両の活用を目指
したが、新型コロナで停滞。

以前に増して施設の意識も運転ボラの確保状況も逆風。
これまでの延長では限界か。妙案が必要。

足腰が弱ってきてても・・・
サロンに参加を続けたい



例えば、千代ヶ丘老人いこいの家で



- ➡ 大切にしてきたこと
- ① 無事故(他への影響大なので)
 - ② 必要ならば、実践する

14年間活動 (延訳2400名)

コロナ以降 ボラ8→4名 (→5名)

サロン6→4 (→5)

年10~40回実施 年100~400名送迎

4. 活動のこれから

(1) 運転ボランティアの確保

サロンから依頼を受け
たら、関係者に運転ボラ
ンティア確保を依頼して
養成できたら開始。

地域包括支援センターなどとの連携

(2) 地域包括ケアの地域課 題の支援策として 区役所への働きかけ

区役所/あさおサロン送迎等推進会議
区役所/みまもり支援センター役職者へ
区社協/現存団体のネットワークを

(3) 福祉分野の活動にとど まらず、地域課題として 開いていく道を模索中

市コミュニティ交通との連携

市・区コミュニティ施策との連携(模索)